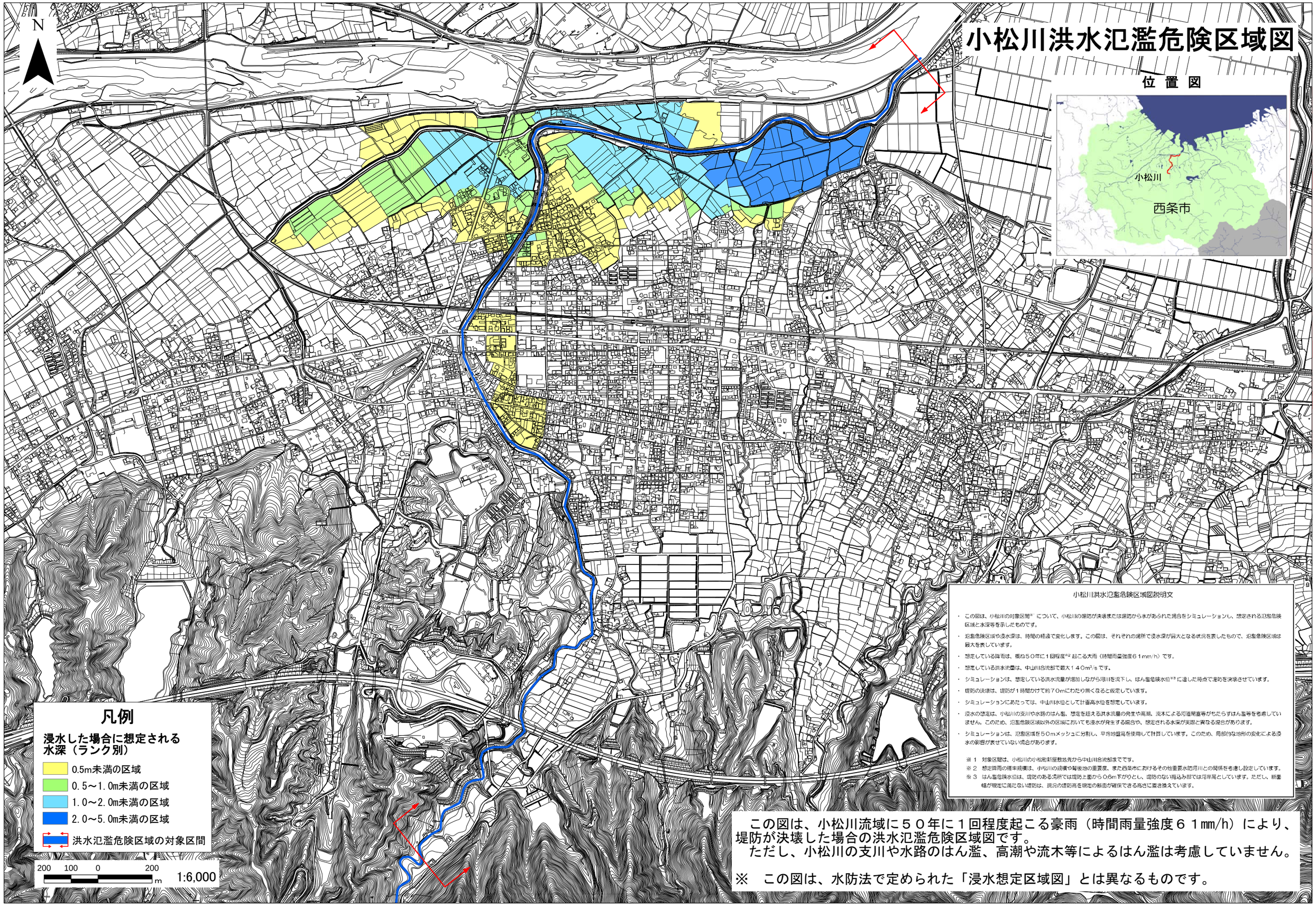
小松川洪水氾濫危険区域図



小松川洪水氾濫危険区域図説明文

- この図は、小松川の対象区間※1 について、小松川の堤防が決壊または堤防から水があふれた場合をシミュレーションし、想定される氾濫危険区域と水深等を示したものです。
- 氾濫危険区域や浸水深は、時間の経過で変化します。この図は、それぞれの場所で浸水深が最大となる状況を表したもので、氾濫危険区域は最大を表しています。
- 想定している降雨は、概ね５０年に１回程度※2 起こる大雨（時間雨量強度６１mm/h）です。
- 想定している洪水流量は、中山川合流部で最大１４０m^3/sです。
- シミュレーションは、想定している洪水流量が増加しながら河川を流下し、はん濫危険水位※3 に達した時点で堤防を決壊させています。
- 堤防の決壊は、堤防が１時間かけて約７０mにわたり無くなると仮定しています。
- シミュレーションにあたっては、中山川水位として計画高水位を想定しています。
- 浸水の想定は、小松川の支川や水路のはん濫、想定を超える洪水流量の発生や高潮、流木による河道閉塞等がもたらすはん濫等を考慮していません。このため、氾濫危険区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。
- シミュレーションは、氾濫区域を５０mメッシュに分割し、平均地盤高を使用して計算しています。このため、局部的な地形の変化による浸水の影響が表せていない場合があります。

※１　対象区間は、小松川の小松町新屋敷地先から中山川合流部までです。
※２　想定降雨の確率規模は、小松川の規模や背後地の重要度、また西条市におけるその他重要水防河川との関係を考慮し設定しています。
※３　はん濫危険水位は、堤防のある場所では堤防上面から０６m下がりとし、堤防のない掘込み部では河岸高としています。ただし、断面幅が規定に満たない堤防は、現況の堤防高を規定の断面が確保できる高さに置き換えています。

この図は、小松川流域に５０年に１回程度起こる豪雨（時間雨量強度６１mm/h）により、堤防が決壊した場合の洪水氾濫危険区域図です。
ただし、小松川の支川や水路のはん濫、高潮や流木等によるはん濫は考慮していません。

※　この図は、水防法で定められた「浸水想定区域図」とは異なるものです。